

【革新的な新品種の開発（研究計画概要）】

病害虫抵抗性に優れた多収の加工用水稻品種の開発

研究期間：令和8年度～令和10年度

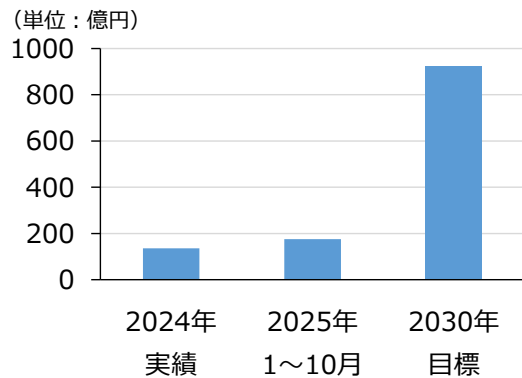
研究機関：農研機構作物研究部門、東北農業研究センター、中日本農業研究センター、九州沖縄農業研究センター、食品研究部門

共同研究機関：宮城県古川農業試験場、愛知県農業総合試験場、三重県農業研究所、滋賀県農業技術振興センター、鹿児島県農業開発総合センター、ノリット・ジャポン（株）、亀田製菓（株）、（株）タイナイ

1. 研究背景・目的

米需要拡大のため、米及び米加工品の輸出拡大が求められている。また、米粉製品は、麺やパン等への利用拡大により需要は増加しているが、生産が需要に追い付いていない。一方、担い手当たりの耕作面積の増加、地球温暖化による環境変動等、水稻作の生産環境変化に対応して、生産性の向上を図るには、多収性、病害虫抵抗性に優れた品種の育成が必要である。

そのため本研究では、極多収の米粉用および糯、病害虫抵抗性に優れた多収酒米、海外輸出にも対応する多収主食用の水稻品種を開発する。



「米・パックご飯・米粉及び米粉製品」の輸出実績と目標

2. 研究内容

行政や現場ニーズに対応し、農研機構の有する遺伝資源やゲノム情報等の育種情報基盤を活用して素材開発を行ってきた各地域向けの米粉用有望系統等について、各種の適性・特性評価を行い、東北向けの米粉麺用、関東・北陸以西向けの米粉パン用、関東以西向けの糯、関東・北陸以西向け酒米用および関東・北陸以西向け輸出用に対応した主食用の品種を開発する。

品種候補の段階から公設試や協力機関等と連携して奨励品種決定調査や現地試験、採種試験等を実施し、早期に品種登録を行って普及を進めるとともに、公設試等へ交配母本として提供する。また、遺伝子型情報および得られた形質情報をあわせて、「育種支援システム」に格納し、広く共用することを前提とする。



米は様々な用途に利用可能

3. 達成目標

- ・東北地域に適した、“やや早生”熟期、耐冷性“中”以上、いもち病抵抗性“強”、収量「あきたこまち」比110%以上の米粉麺用品種（1品種、令和10年品種登録出願予定）
- ・関東・北陸以西の地域に適した、“中生”熟期、縞葉枯病抵抗性、4-HPPD阻害型除草剤に非感受性、収量「日本晴」比120%以上の米粉パン用品種（1品種、令和11年品種登録出願予定）
- ・関東以西の地域に適した、“中生”熟期、縞葉枯病抵抗性、収量「もちだわら」並の極多収糯品種（1品種、令和10年品種登録出願予定）
- ・関東・北陸以西の地域に適した、“やや晩生”熟期、縞葉枯病抵抗性、収量「日本晴」比110%以上の酒米用品種（1品種、令和10年品種登録出願予定）
- ・関東・北陸以西の地域に適した、“やや早生”ないし“中生”熟期、縞葉枯病抵抗性、収量「コシヒカリ」比130%以上の輸出用にも対応した良食味品種（1ないし2品種、令和11年品種登録出願予定）